

年間授業計画

東久留米総合高等学校 令和6年度（2年次用）教科

地理歴史 科目 日本史探究

教科：地理歴史 科目：日本史探究

単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 選択D群、E群

教科担当者：(1)：平澤 (2)：福井

使用教科書：(山川出版社 日本史探究『詳説日本史』/日探705)

教科 地理歴史

の目標：

- 【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 【思考力、判断力、表現力等】我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
- 【学びに向かう力、人間性等】

科目 日本史探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養ったか、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権 律令国家の形成	旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 稲作伝播の様子などを踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 律令国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】旧石器文化～弥生文化の形成、律令体制の状況などについて、多面的・多角的に考察し、理解している。 【思考・判断・表現】考古資料や文献資料をもとに、旧石器文化～弥生文化の社会、律令国家の形成過程について考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】古代の対外交渉の実態を明らかにしようとしている。	○	○	○	24
	定期考査			○	○		1
	貴族政治の展開 院政と武士の躍進 武家政権の成立	摂関政治や平安時代の文化、武士の成長過程について理解する。 院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 鎌倉時代の政治の動向、国際関係・経済・文化について考察する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】摂関政治、院政、平氏政権、鎌倉幕府の成立過程や特色について、理解している。 【思考・判断・表現】摂関政治、院政、平氏政権、鎌倉幕府の成立過程や特色について考察し、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】平安時代の政治の在り方と文化との関係、鎌倉・室町時代の政治の在り方と文化との関係等を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
2 学期	武家社会の成長 近世の幕開け 幕藩体制の成立と展開	南北朝の動乱から室町幕府の成立・安定・動揺について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 大航海時代を踏まえたヨーロッパ人の東アジアへの進出、織豊政権の特色と意義とその影響を考察する。 幕藩体制の成立と展開について理解する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】室町幕府の成立・安定・動揺と織豊政権、幕藩体制の特色と意義を理解している。 【思考・判断・表現】室町幕府の成立から動揺と織豊政権、幕藩体制の特色と意義を、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】東アジアの国際情勢の変化、中世から近世の国家・社会の変容を考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
	幕藩体制の動揺 近世から近代へ 近代国家の成立 近代国家の展開	幕藩体制の動揺を、国際情勢の変化を踏まえて理解する。 国際環境の変化に着目して、日本の開国と幕府の滅亡、新政府の発足について考察する。 明治新政府により近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 日清・日露戦争、第一次世界大戦の時期の政治の動向および対外政策の推移について理解する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】幕藩体制の動揺や開国と幕末の動乱、明治新政府のによる近代国家の基盤形成、19世紀終りからの過程とその意義を理解している。 【思考・判断・表現】幕藩体制の動揺や開国と幕末の動乱、明治新政府のによる近代国家の基盤形成の過程とその意義を明らかにして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】近世後期から近代国家成立・展開期の諸事象を、国際的な視点から考察し、政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
3 学期	近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦 占領下の日本 高度成長の時代	資本主義国家の基盤が確立された過程を理解する。 恐慌による国内経済の動揺、日本の対外政策の推移、日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について考察する。 占領政策及び戦後の民主化政策、日本の独立について、その経過と内容を理解する。 独立後の日本国内政治、経済復興とその後の高度経済成長について、考察する。 端末を使用した小テストの実施	【知識・技能】産業の発達と恐慌による国内経済の動揺、日中戦争から第二次世界大戦、戦後の諸改革、高度経済成長について理解している。 【思考・判断・表現】産業の発達と恐慌による国内経済の動揺、日中戦争から第二次世界大戦、戦後の諸改革、高度経済成長について、根拠を明確にして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】産業の発達産業の発達と恐慌による国内経済の動揺、日中戦争から第二次世界大戦、戦後の諸改革、高度経済成長について、課題を明確にして主体的に追及している。	○	○	○	26
	定期考査						140

年間授業計画

高等学校 令和6年度（2年次用） 教科 国語 科目 実用国語

教科：国語 科目：実用国語 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 組～組
 教科担当者：（1組：竹内）（2組：永井）（3組：）（4組：）（5組：）（6組：）
 使用教科書：（「パスポート国語必携」桐原書店 「ステップアップ日本語講座中級」東京書籍）

教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけさせる。
 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高める
 【学びに向かう力、人間性等】 我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるよ	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		読	聞	書					
1 学期 表現の基礎、国語の基礎知識 【知識及び技能】 漢字検定に必要な知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 学んだ知識を的確に活用する 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に知識を得て、新たな学びをする	指導事項 ・漢字検定に即した漢字の学習、ことわざ、四字熟語の学習 ・近代文学史 ・敬語の学習 ・グループワークを主とした言語活動	○	○	○	【知識・技能】 漢字検定に必要な知識を習得している 【思考・判断・表現】 敬語を実際の場面で的確に使えるようになる グループワークにおいて自分の役割を理解し、適切に活動を進めることができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 積極的に知識を習得し、活用するなかで、新たなものを得ようとしている	○	○	○	23
		定期考査（授業内）		○	○		○	○	
2 学期 表現の基礎、国語の基礎知識 【知識及び技能】 漢字検定に必要な知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 学んだ知識を的確に活用する 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に知識を得て、新たな学びをする	指導事項 ・漢字検定に即した漢字の学習、ことわざ、四字熟語の学習 ・近代文学史 ・敬語の学習 ・グループワークを主とした言語活動	○	○	○	【知識・技能】 漢字検定に必要な知識を習得している 【思考・判断・表現】 敬語を実際の場面で的確に使えるようになる グループワークにおいて自分の役割を理解し、適切に活動を進めることができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 積極的に知識を習得し、活用するなかで、新たなものを得ようとしている	○	○	○	24
		定期考査（授業内）		○	○		○	○	
3 学期 表現の基礎、国語の基礎知識 【知識及び技能】 漢字検定に必要な知識を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 学んだ知識を的確に活用する 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に知識を得て、新たな学びをする	指導事項 ・漢字検定に即した漢字の学習、ことわざ、四字熟語の学習 ・近代文学史 ・敬語の学習 ・グループワークを主とした言語活動	○	○	○	【知識・技能】 漢字検定に必要な知識を習得している 【思考・判断・表現】 敬語を実際の場面で的確に使えるようになる グループワークにおいて自分の役割を理解し、適切に活動を進めることができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 積極的に知識を習得し、活用するなかで、新たなものを得ようとしている	○	○	○	20
		定期考査（授業内）		○	○		○	○	
									合計
									70

年間授業計画

高等学校 令和6年度（2年次用）教科 国語 科目 選択古典探究

教科：国語 科目：選択古典探究 単位数：2 単位
 対象学年組：第2学年 組～組
 教科担当者：（A1組：竹内）（A2組：永井）（組：）（組：）（組：）（組：）
 使用教科書：（「精選古典探究 古文編」東京書籍 「精選古典探究 漢文編」東京書籍）

教科 国語 の目標：
 【知識及び技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけさせる。
 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高める
 【学びに向かう力、人間性等】 我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語・聞	書	読					
1 学 期	古典文法の学習 【知識及び技能】 助動詞の接続、意味を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 本文中での意味の識別ができる 【学びに向かう力、人間性等】 古典文法を積極的に学ぶことができる	指導事項 ・既習事項の復習 ・助動詞の用法の理解 ・問題演習			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文法の用法を理解し、語感を磨くことができる 【思考・判断・表現】 古典特有の表現を理解できる 【主体的に学びに向かう姿勢】 文法知識を的確に活用しようとしている	○	○	○	6
	「小野篁、広才のこと」 【知識及び技能】 必要な語句の量を増やして語彙を豊かにする 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開的確に捉え、内容を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わう	指導事項 ・文学作品の特徴や文学史の理解 ・助動詞や敬語の基本的な用法の確認 ・人物や場面の描写の内容の確認	○	○	○	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やして語彙を豊かにしている 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、構成や展開的確に捉え、内容を理解することができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わい、内容を正確に読み取ろうとする	○	○	○	7
	定期考査			○	○		○	○		1
	「不死之薬」 【知識及び技能】 必要な語句の量を増やして語彙を豊かにする 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開的確に捉え、内容を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わう	指導事項 ・文学作品の特徴や文学史の理解 ・助動詞や敬語の基本的な用法の確認 ・人物や場面の描写の内容の確認	○	○	○	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やして語彙を豊かにしている 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、構成や展開的確に捉え、内容を理解することができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わい、内容を正確に読み取ろうとする	○	○	○	7
	「初冠」 【知識及び技能】 必要な語句の量を増やして語彙を豊かにする 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開的確に捉え、内容を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わう	指導事項 ・文学作品の特徴や文学史の理解 ・助動詞や敬語の基本的な用法の確認 ・人物や場面の描写の内容の確認	○	○	○	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やして語彙を豊かにしている 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、構成や展開的確に捉え、内容を理解することができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わい、内容を正確に読み取ろうとする	○	○	○	7
定期考査			○	○		○	○		1	
	古典文法の学習 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	指導事項 ・既習事項の復習 ・助動詞の用法の理解 ・問題演習			○	【知識・技能】 古典を読むために必要な文法の用法を理解し、語感を磨くことができる 【思考・判断・表現】 古典特有の表現を理解できる 【主体的に学びに向かう姿勢】 文法知識を的確に活用しようとしている	○	○	○	6
	「嫉捨」 【知識及び技能】 必要な語句の量を増やして語彙を豊かにする 【思考力、判断力、表現力等】 構成や展開的確に捉え、内容を理解する 【学びに向かう力、人間性等】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わう	指導事項 ・文学作品の特徴や文学史の理解 ・助動詞や敬語の基本的な用法の確認 ・人物や場面の描写の内容の確認	○	○	○	【知識・技能】 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やして語彙を豊かにしている 【思考・判断・表現】 文章の種類を踏まえて、構成や展開的確に捉え、内容を理解することができる 【主体的に学びに向かう姿勢】 進んで古典特有の表現に注意して展開の面白さを味わい、内容を正確に読み取ろうとする	○	○	○	8

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和6年度

教科

(商 業) 科目 (グローバル経済)

教科：(商 業)

科目：(グローバル経済)

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2・3 学年 組～ 組

教科担当者：(組：) (組：)

使用教科書：(グローバル経済)

教科 (商 業)

の目標：

【知識及び技能】 商業の各分野において、体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 (グローバル経済)

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。	経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現在の社会について理解を深める。 金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について考える。 地域経済統合の意義について学ぶ。 グローバル化によってどのように経済発展に結びつくのかを学ぶ。 グローバル化による問題点について考え、対応方法について検討する。 章末の実習に取り組む。 	第1章 グローバル化が進展する社会 1. 国境を超えて広がる世界 2. グローバル化する社会 3. グローバル化と地域経済統合の動き 4. グローバル化と経済発展 5. グローバル化の諸問題	グローバル化する社会の現状やその問題点の概要について理解している。 ・グローバル化の進展によって、社会がどのように変化しているのか、経済面での発展との関連について考えている。 ・地域経済統合の意義について理解し、主な地域経済統合について把握している。 ・グローバル・バリューチェーンについて理解するとともに、経済発展との関連について考えている。 ・グローバル化による問題点について、解決策の検討に取り組んでいる。 ・実習に積極的に取り組んでいる。	○	○	○	10	
	<ul style="list-style-type: none"> 多国籍企業のグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について考える。 企業が海外進出するにあたっての方法や難しさなどを学ぶ。 マザー工場システムや海外拠点の役割について理解し、グローバル化の問題点について学ぶ。 グローバル経営における課題を把握し、対応策について考える。 グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会的責任について理解する。 章末の実習に取り組む。 	第2章 経営のグローバル化 1. 多国籍企業とグローバル経営 2. 企業の海外進出とグローバル経営の難しさ 3. グローバル経営の現状 4. グローバル経営の課題 5. グローバル化に伴う企業の社会的責任	・企業がグローバル化する理由について考察することができている。 ・企業が海外進出する際の判断基準や方法について、それぞれの内容を理解している。 ・海外拠点の役割の変化や現地化の内容について理解している。 ・グローバル経営を行う上での課題について考察し、対応方法について考察することができている。 ・グローバル化に伴う問題に対する企業の社会的責任について理解している。 ・実習に積極的に取り組んでいる。	○	○	○	14	
	定期考査			○	○		2	
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 経済のグローバル化における人材(ヒト)の状況を外国人労働者や賃金の観点を含めて理解する。 自由貿易と国際分業の観点をもとに、経済のグローバル化における財(モノ)のやり取りに関して、二国間協定や地域経済統合の意義を学ぶ。 	第3章 経済のグローバル化 1. 人材のグローバル化 2. 財とサービスのグローバル化	・人材のグローバル化について、現状を理解し、課題について考察することができている。 ・国際分業の特徴について理解し、それを実現させるための各種協定等について、各国における状況を踏まえて理解している。	○	○	○	10	
	<ul style="list-style-type: none"> 金融の役割や形態、金融商品、金融機関等について学び、日本における金融の現状と外国為替に関する知識を学び、金融(カネ)のグローバル化について理解する。 情報通信技術の発達と個人情報のあり方についての視点から、情報のグローバル化について理解する。 章末の実習に取り組む。 需要と供給に着目した市場に関する理論について理解し、現実の社会における市場の役割と課題について学ぶ。 	3. 金融のグローバル化 4. 情報のグローバル化 第4章 市場と経済 1. 需要と供給による市場の理論	・金融の概要についての知識を身につけることができている。 ・日本における金融についての課題を把握し、その対応について考察することができている。また、グローバル化によって変化している金融の将来について考えている。 ・高度情報化社会の状況について理解しようとし、発生する諸問題についても解決策を検討することができている。 ・実習に積極的に取り組んでいる。 ・市場に関する理論的な内容について理解することができている。 ・現実社会における市場の課題について考察し、対応のための方法について考えることができる。 ・市場理論を通して、経済学について関心を	○	○	○	16	
	定期考査			○	○		2	
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> GDPについて理解し、マクロ的な視点から経済成長について学ぶ。 景気循環のしくみについて理解し、その弊害について考察する。 経済政策における政府の役割について学び、現状と問題点について理解する。 章末の実習に取り組む 	2. 経済成長 3. 景気循環とインフレーション 4. 経済政策	・GDPおよび関連する諸指標について、その内容、計算方法について理解している。 ・景気循環のしくみと問題点について科学的に考察することができている。 ・財政の内容や役割について理解し、あわせて現状と問題点についても理解している。 ・実習に積極的に取り組んでいる。	○	○	○	14	
	定期考査						2	
							合計	70

教科： 情報 科目： ネットワークシステム

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 選択

教科担当者： (望月)

使用教科書： ([情報706]情報ネットワークシステム)

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】情報と情報技術の問題の発見・解決に活用するための知識についての理解

【思考力、判断力、表現力等】事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用

【学びに向かう力、人間性等】情報社会との関わりについて考えながら改善しようとする。

科目 ネットワークシステム の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ネットワークシステムに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、要求をもとに合理的にネットワークを設計し、構築にその技術を適切に活用している。	安全で快適なネットワークシステムの利用と構築を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ネットワークシステムに携わる者として論理的に考えて判断し、正しく表現できる創造的な能力を身に付けている。	ネットワークシステムの利用や構築について関心を持ち、その改善・向上を目指して積極的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータネットワークで何が便利になるかを学ぶ。 ・社会で利用されているネットワークシステムを学ぶ。 ・ネットワークとそこから得られる情報が社会に及ぼす効果や影響を学ぶ。 ・ネットワークを利用する上での特有の課題を学ぶ。 ・クライアントサーバシステムなどのネットワークの基本的な形態を理解する。 	第1章 ネットワークの基礎 1節 ネットワークシステムとは	【知識・技能】 ・ネットワーク特有の課題を理解し、ネットワークシステムを利用することができるか。 ・ネットワークシステムが社会でどのように利用されているかを理解しているか。 ・ネットワークシステムを利用する上での課題を理解しているか。 ・ネットワークの基本的な形態を理解しているか。 【思考・判断・表現】 ・身近なネットワークシステムについて、社会での役割や使い方を適切に説明できるか。 ・身近なネットワークシステムの形態を適切に判断することができるか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ネットワークシステムの社会での利用とその効果について興味や関心を示しているか。 ・ネットワークの基本的な形態について関心を示しているか。				23
	<ul style="list-style-type: none"> ・UTPケーブルを中心に伝送媒体の特性を理解する。 ・ケーブルや無線で、ネットワークカードと各種の接続機器とが接続されて、ネットワークが構築されることを学ぶ。 ・ネットワークがプロトコルで動作することを学ぶ。 	2節 ネットワークを構成する要素					
	<ul style="list-style-type: none"> ・ツリー型を中心にLANの接続形態を理解する。 ・クライアントサーバ型の形態を学ぶ。 ・CSMA/CD方式を中心にLANのアクセス制御を学ぶ。 ・OSI参照モデルを参考に通信プロトコルが階層構造になっている 	3節 ネットワークアーキテクチャ					
	<ul style="list-style-type: none"> ・TCP/IPでのプロトコルの階層構造の働きを学ぶ。 ・MACアドレスとIPアドレスを使ったデータの転送を理解する。 ・IPアドレスとサブネットマスクの意味について理解する。 ・TCPでのデータの送信から受信までの手順を学ぶ。 ・ポート番号の役割を学ぶ。 ・IPv6のIPアドレスとIPv6の機能について理解する。 	第2章 TCP/IPとインターネット 1節 TCP/IP					
	定期考査	考査		○	○		1

2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> LAN間接続機器の特徴を学ぶ。 ルータの役割とルーティングテーブルの意味を理解する。 インターネットで使われる各種サーバとそのサーバで実行されるプロトコルの役割を理解する。 インターネットへの接続方法を学ぶ。 QoS, クラウドコンピューティングなどインターネットに関連した技術を学ぶ。 	2節 インターネット	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットワークの構成に従って、ルーティングテーブルを作成することができるか。 パケットが目的のIPアドレスにたどり着く経路を調べることができるか。 バックアップの種類による目的や対象等の違いについて理解しているか。 障害記録を残す必要性について理解しているか。 ネットワークやファイルシステムの多重化について理解しているか。 					
	<ul style="list-style-type: none"> 物理配線マップとアドレスマップを学ぶ。 通信量や待ち行列の計算方法を学ぶ。 	第3章 ネットワークの構築 1節 ネットワークの分析	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットワークの構成や経路情報を基に、ルーティングテーブルを適切に表現することができるか。 LAN間接続の方法や目的に応じた機器を選択することができるか。 インターネットのサービスに応じて、サーバの種類やプロトコルを判断することができるか。 適切なパスワードと不適切なパスワードの違いを判断することができたか。 アクセス権の設定表を正しく表記することができるか。 公開鍵暗号方式での公開鍵と秘密鍵の使い方を判断することができるか。 不正侵入やマルウェアに対する基本的な対処や対策について考えることができるか。 	○	○	○	24	
	<ul style="list-style-type: none"> UTPケーブルとハブを使用した小規模LANの設計方法を学ぶ。 無線LANを使用した小規模LANの設計方法を学ぶ。 ルータを使用した小規模LANの設計方法を学ぶ。 	2節 ネットワークの設計	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットの仕組みや構成する機器に関心を示しているか。 インターネットのサービスに興味を示し、意欲的に学習しようとしているか。 インターネットへの接続方法に興味や関心を示しているか。 安全対策の方法について関心を持っているか。 不正侵入やマルウェアへの対策について関心を持っているか。 不正侵入やマルウェアによる被害などの事例に興味を示しているか。 ネットワークシステムの安全性を高めようとする態度を有しているか。 					
	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの運用に必要な管理項目を理解する。 	第4章 ネットワークの運用と保守 1節 ネットワークの運用	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットの仕組みや構成する機器に関心を示しているか。 インターネットのサービスに興味を示し、意欲的に学習しようとしているか。 インターネットへの接続方法に興味や関心を示しているか。 安全対策の方法について関心を持っているか。 不正侵入やマルウェアへの対策について関心を持っているか。 不正侵入やマルウェアによる被害などの事例に興味を示しているか。 ネットワークシステムの安全性を高めようとする態度を有しているか。 					
	<ul style="list-style-type: none"> 定期保守, 事後保守, 予防保守のために行う作業項目を学ぶ。 	2節 ネットワークの保守	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネットの仕組みや構成する機器に関心を示しているか。 インターネットのサービスに興味を示し、意欲的に学習しようとしているか。 インターネットへの接続方法に興味や関心を示しているか。 安全対策の方法について関心を持っているか。 不正侵入やマルウェアへの対策について関心を持っているか。 不正侵入やマルウェアによる被害などの事例に興味を示しているか。 ネットワークシステムの安全性を高めようとする態度を有しているか。 					
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 安全対策に必要な項目を学ぶ。 不正アクセス防止のための対策を学ぶ。 マルウェア感染の予防, 感染したときの処置方法を学ぶ。 	3節 ネットワークの安全対策	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 変調方式, 符号化方式, 誤り制御等のデータ伝送の基本的な技術を理解しているか。 圧縮方式と伝送されるデータの種類について理解しているか。 回線の接続形態や接続制御について理解しているか。 伝送制御とその手順について理解しているか。 データ伝送に関する用語について正しく理解しているか。 					
	<ul style="list-style-type: none"> 電気通信サービスとそこで使われる機器の役割を学ぶ。 	第5章 データ通信関連技術 1節 データ通信の技術	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 変調方式について区別することができるか。 符号化の手順とその役割を説明することができるか。 誤り制御の必要性について考えることができるか。 伝送するデータの種類に応じた圧縮方式を選択することができるか。 伝送制御手順におけるデータの扱いの違いを表現できるか。 	○	○	○	22	
	<ul style="list-style-type: none"> データ伝送のための変調, 符号化, 誤り制御, 同期制御の概要を学ぶ。 伝送制御のため接続形態, 伝送制御手順の特徴を学ぶ。 	2節 関連技術	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> データ伝送における基本的な技術について関心を示しているか。 伝送制御における基本的な技術について関心を示しているか。 					
	<ul style="list-style-type: none"> 電気通信事業者, 電波法の概要を学ぶ。 	3節 ネットワーク関連法規						
合計								
70								

教科： 情報

科目： 情報デザイン

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 選択

教科担当者： (望月)

使用教科書： ([情報705]情報デザイン)

教科 情報 の目標：

【知識及び技能】情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識についての理解

【思考力、判断力、表現力等】事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用

【学びに向かう力、人間性等】情報社会との関わりについて考えながら改善しようとする。

科目 情報デザイン の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
情報伝達やコミュニケーションと情報デザインとの関係について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	情報デザインの手法、構成、活用に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	情報デザインによる効果的な情報伝達やコミュニケーションの実現を目指して自ら学び、コンテンツやユーザインタフェースのデザインなどの構築に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A デザインって何だろう ・デザインにとって大切なことは何かを意識してみる。 ・デザインが人間生活のさまざまな目的を達成するための合目的行為であることを理解する。 ・有意義なデザインにするためには、見た目のよさだけでなく、倫理観や社会的意識をもって、社会に及ぼす影響を考慮する姿勢が大切であることを理解する。 ・人間どうしのコミュニケーションの始まりはシンボルを共有するところから発展していったことを理解する。	・何のためのデザイン ・社会の中のデザイン ・デザインの手順 パソコン室の端末と1人1台端末	【知識・技能】 ・社会におけるデザインの役割や対象について理解している。 ・デザインのプロセスについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・人間中心設計のデザインを考えることができる。 ・デザインによる課題解決の事例を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・社会におけるデザインの果たす役割について、自ら学ぶようとしている。 ・デザインのプロセスを用いて、主体的に課題解決に取り組むことができる。	○	○	○	10
	B 何をデザインするのか ・情報があふれる時代の中で、情報の受け手としては必要な情報を選択し、送り手としてはわかりやすく表現して伝えることが必要であることを理解する。 ・絵文字から表音文字、粘土板から紙、印刷技術による情報の伝達と共有が、人類に大きな力を与えていったことを理解する。 ・コミュニケーションモデルを理解し、表現の文脈に込められたメッセージを読み解く姿勢、送り手と受け手の間でどのような体験を共有できるかに配慮する姿勢が大切であることを理解する。	・何かを伝えるデザイン ・コミュニケーションのモデル	【知識・技能】 ・情報デザインの意義や役割、対象について理解している。 ・コミュニケーションモデルについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・効果的に課題を解決するための情報デザインを考えることができる。 ・情報の送受信をコミュニケーションモデルで説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報デザインの対象について、自ら学ぶようとしている。 ・コミュニケーションのモデルを用いて、自らの情報伝達やコミュニケーションの活動を振り返り、改善しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査	考査		○	○		1
2 学期	A デザインの造形要素と構成 ・造形の基礎となる要素「形態」と「色彩」を分析し、見る人の視点での心の動きを理解する。 ・基本形態（純粋形態）として点・線・面、さらには立体・空間の造形的意味を理解する。 ・配色を効果的に利用するため、色と光の関係、光の三原色、色の三原色、色の三属性など色彩のもつ意味を理解する。 ・形態と色彩の学びから見る人の視点でのさまざまな心理的な効果を理解する。	・形態 ・色彩 ・造形と心理 ・構成の基礎となる手法 ・コミュニケーションの演出	【知識・技能】 ・色彩を使った表現が人間の心理に与える影響について理解している。 ・造形が人間の心理に与える影響について理解している。 【思考・判断・表現】 ・造形や色彩が人間の心理に与える影響を考慮して、課題解決に向けて造形や色彩を適切に選択することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・造形や色彩の要素を考慮して、自ら情報伝達やコミュニケーションの活動を振り返り、改善しようとしている。	○	○	○	14
	B デザインの観察と検討 ・自然物や人工物、事象などを対象とし、目に見える動きや見えない感性の変化を理解し、全体や部分の観察、時間の経過での変化のプロセスも学び、さまざまな観察の視点を理解する。 ・具象から抽象までの四つの視点を学び、効果的に表現する造形の手法や質感的表現を体験を通して理解する。 ・アイデアとは目的を果すための工夫であると認識し、目的意識をもって現状を観察し、問題点を分析するプロセスを経てアイデアを出し合い、グループワークを通して思考を活性化していくことを理解する。 ・デザインを検討するための、情報収集の手法について理解する。	・観察してみよう ・表現への過程 ・情報の収集 ・コンセプトを考える ・情報を組み立てる	【知識・技能】 ・観察の方法や視点について理解している。 ・観察の結果を表現するときの考え方について理解している。 【思考・判断・表現】 ・観察の方法や視点を変えて対象を観察することができる。 ・情報デザインの具体例から、造形の基本となる手法や表現技法を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・観察の方法や視点について関心をもち、ねばり強く観察に取り組もうとする。 ・造形や表現技法の視点から、自らの表現活動を振り返り、改善しようとしている。	○	○	○	14

3 学 期	A デザインの活用 ・デザインが人の気持ちを動かし、それによって社会に影響を及ぼすことを理解する。 ・社会における情報デザインの役割を踏まえ、システムとしてのデザインを学び、デザインに関する権利についても理解する。 ・さまざまな人へ情報を届けるための手法や各メディアの違いを理解し、考える力を身に付ける。 ・スケッチ、ワイヤーフレーム、プロトタイプといったインタラクティブデザインの手順と考え方を理解する。	・デザインが目指すもの ・ ビジュアルデザイン ・ インタラクティブメディアのデザイン	【知識・技能】 ・情報デザインの役割やインタフェースの工夫、デザインにかかわる権利について理解している。 ・インフォグラフィックスやWebページなどメディアのビジュアルデザインについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・社会や身のまわりの情報伝達やコミュニケーションの課題について、発見することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・目的を踏まえ、情報デザインを用いた課題の解決に、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	B 総合演習 ・学級新聞や、クラスのWeb ページ作成を通して、情報をよりよく理解してもらうための工夫の一つとしての情報デザインの意義を理解する。 ・グループワークを中心に、ショップのトータルなデザインを行い、ポスターやリーフレットなどさまざまなデザインが相互に関連し、統一されたメッセージを発信することを理解する。	・ いろいろなメディアをデザインする ・ ポスター、リーフレットをデザインする	【知識・技能】 ・お店と顧客をつなぐショップカードやポスターなどのコミュニケーションメディアや、Webサイトをデザインする技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・習得した知識や技能を活用してコミュニケーションメディアやWebサイトをデザインし、ショップの活性化の課題を解決することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コミュニケーションメディアやWebサイトのデザインを自ら行い、情報メディアを用いたショップ活性化の課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	13
							合計
							70

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和6年度（1学年用） 教科

美術 科目 素描

教科：美術

科目：素描

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（ 組： ） （ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 美術 の目標： 芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 素描 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようになる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫。美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
オリエンテーション 透視図法	・指導事項 ・教材 ・道具の扱い方等	【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】を観察、ワークシート記入させる。 構想を実現するための手順や新しい技術を知り、柔軟に取り入れる姿勢を評価する。	○	○	○	2
デッサンの基本 立方体・幾何形体デッサン 【知識及び技能】 構図、明暗、正確に形をとらえられる資質能力を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵と言葉で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 構想を実現するための手順や新しい技術を知り、柔軟に取り入れることができる。	基礎的な技術を身につける。 一般的な作品制作の段階を知り、実践する。 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵と言葉で表現することを重視する。	【知識・技能】 構図、明暗、正確に形をとらえられる資質能力を評価する。 【思考・判断・表現】 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵と言葉で解釈を深める表現力を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 構想を実現するための手順や新しい技術を知り、柔軟に取り入れる姿勢を評価する。	○	○	○	10
定期考査						
1 学期 静物デッサン 【知識及び技能】 構図、明暗、正確に形をとらえられる資質能力を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵と言葉で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 構想を実現するための手順や新しい技術を知り、柔軟に取り入れることができる。	模写の段階を知り、実践する。 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵ではなく言葉で表現することを重視する。	【知識・技能】 構図、明暗、正確に形をとらえられる資質能力を評価する。 【思考・判断・表現】 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵と言葉で解釈を深める表現力を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 構想を実現するための手順や新しい技術を知り、柔軟に取り入れる姿勢を評価する。	○	○	○	12
石膏デッサン 【知識及び技能】 構図、明暗、正確に形をとらえられる資質能力を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵と言葉で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 構想を実現するための手順や新しい技術を知り、柔軟に取り入れることができる。	中級技術を身につける。 一般的な作品制作の段階を知り、実践する。 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵ではなく言葉で表現することを重視する。	【知識・技能】 構図、明暗、正確に形をとらえられる資質能力を評価する。 【思考・判断・表現】 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵と言葉で解釈を深める表現力を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 構想を実現するための手順や新しい技術を知り、柔軟に取り入れる姿勢を評価する。	○	○	○	10
定期考査						
2 学期 静物デッサン 【知識及び技能】 構図、明暗、正確に形をとらえられる資質能力を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵と言葉で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 構想を実現するための手順や新しい技術を知り、柔軟に取り入れることができる。	中級技術を身につける。 一般的な作品制作の段階を知り、実践する。 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵ではなく言葉で表現することを重視する。	【知識・技能】 構図、明暗、正確に形をとらえられる資質能力を評価する。 【思考・判断・表現】 しっかりとした構想を持ち、構想したことをまず絵と言葉で解釈を深める表現力を評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 構想を実現するための手順や新しい技術を知り、柔軟に取り入れる姿勢を評価する。	○	○	○	12

年間授業計画

東久留米総合 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科

美術 科目 クラフトデザイン

教科：美術 科目：クラフトデザイン

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

教科担当者：（ 志田 ）

使用教科書：（ ）

教科 美術

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化の目標： 化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 クラフトデザイン の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようになる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	オリエンテーション ワイヤーアート 竹箸づくり	針金を曲げる、叩く、竹を削る、磨くの基本を金属、自然物を素材に工夫して表現する。 金づち、ラジオペンチ、小刀の安全な使い方	【知識・技能】 自分の思いを素材の良さを生かし工夫して制作する。 【思考・判断・表現】 自分の思いを素材の良さを生かし工夫して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の思いを素材の良さを生かし工夫して制作し友達の良さをワークシートを使って観察、作品から評価する。また、発表の様子も評価の対象となる。 発表内容はワークシートにまとめさせる。 出席状況・授業中の基本的な受講態度が、主体的に学習に取り組む態度となる。	○	○	○	8
	彫金	アルミニウム板で金づちとくぎを使って凹凸をつける 銅板ではアルミニウム同様に作った後、硫化着色をして磨き、彫金を行う	【知識・技能】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに文字、染色、切り絵により工夫して制作する。 【思考・判断・表現】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに、文字、染色、切り絵により工夫して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに工夫して制作し友達の良さをワークシートを使って観察、作品から評価する。また、発表の様子も評価の対象となる。 発表内容はワークシートにまとめさせる。 出席状況・授業中の基本的な受講態度が、主体的に学習に取り組む態度となる。	○	○	○	8
	ステンシルバック			○	○	○	8
	定期考査			○	○		
	陶芸	信楽粘土を使って 茶碗・カップ・ランプシェードを制作する	知識・技能】 自分の思いを、あかりの効果を意識して工夫して制作する。 【思考・判断・表現】 自分の思いを、あかりの効果を考えて、工夫して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の思いを、あかりの効果を意識して工夫して制作し友達の良さをワークシートを使って観察、作品から評価する。また、発表の様子も評価の対象となる。 発表内容はワークシートにまとめさせる。 出席状況・授業中の基本的な受講態度が、主体的に学習に取り組む態度となる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		8

2 学 期	伝統工芸 螺鈿プレート作り	沈金 ニードルで自然物を掘り込み、金の絵の具を入れる 螺鈿 シールタイプの青貝を使った貼り付け 細やかな切り絵	【知識・技能】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに文字、染色、切り絵により工夫して制作する。 【思考・判断・表現】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに、文字、染色、切り絵により工夫して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに工夫して制作し友達の良さをワークシートを使って観察、作品から評価する。また、発表の様子も評価の対象となる。 発表内容はワークシートにまとめさせる。 出席状況・授業中の基本的な受講態度が、主体的に学習に取り組む態度となる。	○	○	○	8
	マイボックス アートグラスと木彫	木彫ボックスの蓋の部分をアートグラスで制作し、側面を木彫で表現する。	【知識・技能】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマにアートグラスで表現し側面を木彫で工夫して制作する。 【思考・判断・表現】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマにアートグラスで表現し側面を木彫で工夫して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに工夫して制作し友達の良さをワークシートを使って観察、作品から評価する。また、発表の様子も評価の対象となる。 発表内容はワークシートにまとめさせる。	○	○	○	8
3 学 期	陶芸 花瓶・立像・彫塑	信楽粘土を使って、花瓶・立像・彫塑 など、彫刻刀を使って表現する。	【知識・技能】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに陶芸用粘土で工夫して制作する。 【思考・判断・表現】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに、陶芸用粘土で工夫して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の思いを、花鳥委風月をテーマに工夫して制作し友達の良さをワークシートを使って観察、作品から評価する。また、発表の様子も評価の対象となる。 発表内容はワークシートにまとめさせる。 出席状況・授業中の基本的な受講態度が、主体的に学習に取り組む態度となる。	○	○	○	4
						合計	70

